

寄付行動におけるシードマネー効果の神経基盤

2009年4月

長塚昌生* 篠崎淳+ 二本杉剛*‡ 西條辰義†

概要

寄付を集めるとき目標額に対して現在集まっている寄付金額をシードマネーと呼ぶ。このシードマネーが増えれば増えるほど、寄付金額、寄付する人数、平均寄付額が増えることをシードマネー効果という。現在までの研究では、シードマネー効果の原因は明らかにされていない。そこで、本研究ではシードマネー効果の原因を分析するために **fMRI** を用いた実験を計画した。17人の被験者に対して2種類のシードマネーが異なる状況下で寄付に関する意思決定をおこなう時点での脳活動を撮像する実験を実施した。結果として、報酬の確率に関与するとされる前部傍帯状皮質、および、負の感情に関わるとされる島皮質の活動変化を確認した。ここから、シードマネーが小さい時は、寄付の目標達成の不確実性が大きいと被験者が評価して、寄付の目標が達成されそうにないと感じるために負の感情が大きく寄付をしないという意思決定を行う。しかし、シードマネーが増えることによって、被験者は目標達成の不確実性が小さくなったと評価して、負の感情が減少することで、寄付をするという意思決定を行おうとしていることが示唆された。

*大阪大学経済学研究科博士前期課程 hge013nm@mail2.econ.osaka-u.ac.jp

+札幌医科大学医学部神経科学講座

‡日本学術振興会

†大阪大学社会経済研究所